

# 横谷遺跡

二〇二一年（令和三年）

四日市市教育委員会

2021年（令和3年）  
四日市市教育委員会



調査区全景（北から）



調査区南部堅穴住居・堀立柱建物（南東から）

## 例言

- 1 本書は、四日市市が国土交通省中部地方整備局から委託を受けた、一般国道1号北勢バイパス道路建設予定地にかかる横谷遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査にかかる費用は、国土交通省中部地方整備局の負担による。
- 3 現地調査および整理作業は、下記の体制で行った。
  - ・調査主体 四日市市教育委員会
  - ・調査担当 四日市市教育委員会社会教育課（平成31年度以降は社会教育・文化財課）
    - 平成27年度：主幹 清水政宏 嘱託 山本達也
    - 平成29年度：主幹 清水政宏 嘱託 山本達也
    - 平成30年度：主幹 清水政宏 嘱託 山本達也
    - 平成31（令和元）年度：主幹 清水政宏 嘱託 山本達也
    - 令和2年度：主幹 清水政宏 会計年度任用職員（フルタイム） 山本達也
  - ・土工委託 株式会社イビック
- 4 報告書の作成業務は平成29～31年度及び令和2年度に四日市市教育委員会社会教育・文化財課が行い、執筆・編集は山本達也が行った。
- 5 報告書の作成にあたり、伊藤加奈子・石崎恵美・後藤津香・萩原なぎさ・松崎由里・北野節子・鈴木美和子ほか、多数の協力を得た。
- 6 遺構実測図作成にあたっては、国土調査法による第VI座標系を基準とし、方位の表示は座標北を用いた。
- 7 本書に使用した遺構表示記号は、下記のとおりである。  
SH: 壁穴住居 SB: 挖立柱建物 SK: 土坑 SD: 槽
- 8 本書で表記する色調は、農林水産省水産技術会事務局監修及び財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』（2002年版）に準拠した。
- 9 本書が扱う発掘調査の資料や出土遺物は、四日市市教育委員会が保管している。

## 本文目次

I	前言
1.	事業の概要
2.	調査に至る経過
3.	文化財保護法等にかかる諸手続き
II	位置と環境
1.	地理的環境
2.	歴史的環境

III	調査の成果
1.	調査の方法
2.	基本層位
3.	遺構
4.	遺物
IV	結語

## 挿図目次

第1図	北勢バイパス建設予定地内(四日市市)
	遺跡位置図
第2図	遺跡位置図
第3図	横谷遺跡位置図
第4図	横谷遺跡一次調査区配置図
第5図	横谷遺跡二次調査区配置図
第6図	横谷遺跡構造配置図
第7図	調査区東壁断面図
第8図	調査区東壁断面図
第9図	調査区南壁断面図
第10図	SH1・SD12・SK10・SK14・SK15平面・断面図
	.....
	17

第11図	SH2・SB7・SB8平面・断面図
第12図	SH3・SH4・SK22・SK23・SD24・SB25平面・断面図
第13図	SH5・SH6・SK10・SH28平面・断面図
第14図	SH29・SK34・SH30・SK36・SK31・SK35平面・断面図
第15図	SK11・SK17・SK18・SK19・SK21・SK26・SK27・SK28・SK38・SK32平面・断面図
第16図	遺物実測図①
第17図	遺物実測図②
第18図	横谷遺跡周辺遺跡位置図

## 挿表目次

第1表	北勢バイパス建設予定地内(四日市市)遺跡一覧表
第2表	遺物観察表
第3表	堅穴住居観察表

第4表	掘立柱建物観察表
第5表	土坑観察表
第6表	溝観察表
第7表	各遺構石器石材数量表

## 写真図版

卷頭図版	調査区全景
調査区南部堅穴住居・掘立柱建物	
図版1	SH1全景
図版2	SH2全景、SH3全景
図版3	SH5全景、SH6全景
図版4	SH28全景、SH29全景
図版5	SH30全景
図版6	SB7全景、SB8全景
図版7	SB25全景、SK31・SK35全景
図版8	SK27遺物出土状況、SK38全景

図版9	調査区南部全景、調査区中央部遺構群
図版10	出土遺物

## I 前言

うち、南部において堅穴住居や土坑、構などの遺構の検出、および遺物として土器を確認し、4,170 m<sup>2</sup>を要二次調査範囲と判断した。これを受けて平成29年度に二次調査を行った。

なお、本調査区の西側には送電鉄塔があり、北勢バイバス建設に際してはこの移設工事も行われることになった。鉄塔新設予定地も横谷の範囲内であったことから、平成31年度に第2次発掘調査を行い、今回報告する第1次調査で検出した遺構に連続する部分を確認している。

そのため、北勢バイパスは四日市を中心とした北勢地域の内陸部を縦横にバイパスし、臨海部の国道1号及び23号に集中する自動車交通を適切に分散して交通混雑の緩和、道路交通の安全を図ると共に、内陸部の地域開発の促進など、当地域の経済の発展に寄与することも期待されている。

### 2. 調査に至る経過

北勢バイパスの路線内における埋蔵文化財については、昭和63年度に三重県教育委員会が分布調査を実施した。その結果をもとに建設省中部地方整備局(現国土交通省中部地方整備局)と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、現状保存が困難な遺跡は事前に発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった(第1図、第1表)。

調査主体は当初、三重県教育委員会が行う計画であったが、四日市市内の遺跡については建設省(現国土交通省)、三重県教育委員会、四日市市教育委員会が協議を重ねた結果、四日市市教育委員会が調査を受託することとなった。

横谷遺跡は北勢バイパス計画以前から知られており、石器・弥生土器が出土する遺跡とされていた(第2図)。北勢バイパスの建設工事に先立ち、平成27年8月17日から9月7日にかけて事業地内にかかる約8,000 m<sup>2</sup>を対象として一次調査を実施した。調査は、2 m幅のトレンチ9本を設定してを行い、トレンチ面積の合計は800 m<sup>2</sup>であった(第4図)。

調査の結果、事業地の遺跡範囲にかかる部分の

5月16日(火) 晴り	表土掘削開始
5月17日(水) 薄曇り	表土掘削継続
5月18日(木) 快晴	表土掘削継続、小地区設定
5月19日(金) 快晴	表土掘削継続、堅穴住居検出
5月22日(月) 快晴	表土掘削継続、堅穴住居検出
5月23日(火) 晴れ	南部表土掘削完了、段階確認
5月24日(水) 晴り	ベルコン設置、現場養生等
5月25日(木) 雨	雨天作業なし
5月26日(金) 晴り	包含層掘削、検出手作業
5月29日(月) 快晴	包含層掘削、接出手作業
5月30日(火) 晴れ	包含層掘削作業南端完了
5月31日(水) 晴り	S H 1・3・4他掘削開始
6月1日(木) 晴り	北部半井土削手 SH1・5・6削削
6月2日(金) 晴れ	北部西半井土削手 空真撮影、SH5・7削削
6月5日(月) 晴れ	空真撮影、SH1・2削削
6月7日(水) 雨	雨天作業なし
6月8日(木) 雨後暴り	排水作業
6月9日(金) 晴れ	S H 1・3・4他掘削
6月12日(月) 快晴	空真撮影、SH3・4他掘削
6月13日(火) 快晴	S H 2・3・4他掘削
6月14日(水) 快晴	空真撮影、SH3・4他掘削
6月15日(木) 快晴	空真撮影、SH3・4他掘削
6月16日(金) 晴れ	S H 1・2・3他掘削
6月19日(月) 快晴	S H 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・200・201・202・203・204・205・206・207・208・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・299・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・309・310・311・312・313・314・315・316・317・318・319・319・320・321・322・323・324・325・326・327・328・329・329・330・331・332・333・334・335・336・337・338・339・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・349・350・351・352・353・354・355・356・357・358・359・359・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・369・370・371・372・373・374・375・376・377・378・379・379・380・381・382・383・384・385・386・387・387・388・389・389・390・391・392・393・394・395・396・397・397・398・399・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・419・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429・429・430・431・432・433・434・435・436・437・438・439・439・440・441・442・443・444・445・446・447・448・449・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・479・480・481・482・483・484・485・486・487・487・488・489・489・490・491・492・493・494・495・496・497・497・498・499・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508・509・509・510・511・512・513・514・515・516・517・518・519・519・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・529・530・531・532・533・534・535・536・537・538・539・539・540・541・542・543・544・545・546・547・548・549・549・550・551・552・553・554・555・556・557・558・559・559・560・561・562・563・564・565・566・567・568・569・569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・579・580・581・582・583・584・585・586・587・587・588・589・589・590・591・592・593・594・595・596・597・597・598・599・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・609・610・611・612・613・614・615・616・617・618・619・619・620・621・622・623・624・625・626・627・628・629・629・630・631・632・633・634・635・636・637・638・639・639・640・641・642・643・644・645・646・647・648・649・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・659・660・661・662・663・664・665・666・667・668・669・669・670・671・672・673・674・675・676・677・678・678・679・680・681・682・683・684・685・686・687・687・688・689・689・690・691・692・693・694・695・696・696・697・698・698・699・699・700・701・702・703・704・705・706・707・708・708・709・710・711・712・713・714・715・716・717・718・718・719・719・720・721・722・723・724・725・726・727・728・728・729・729・730・731・732・733・734・735・736・737・738・738・739・739・740・741・742・743・744・745・746・747・748・749・749・750・751・752・753・754・755・756・757・758・758・759・759・760・761・762・763・764・765・766・767・768・769・769・770・771・772・773・774・775・776・777・778・778・779・779・780・781・782・783・784・785・786・787・787・788・789・789・790・791・792・793・794・795・796・796・797・798・798・799・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・808・809・809・810・811・812・813・814・815・816・817・817・818・818・819・819・820・821・822・823・824・825・826・827・827・828・828・829・829・830・831・832・833・834・835・836・837・837・838・838・839・839・840・841・842・843・844・845・846・847・848・849・849・850・851・852・853・854・855・856・857・858・858・859・859・860・861・862・863・864・865・866・867・868・869・869・870・871・872・873・874・875・876・877・878・878・879・879・880・881・882・883・884・885・886・887・888・889・889・890・891・892・893・894・895・896・896・897・897・898・898・899・899・900・901・902・903・904・905・906・907・907・908・908・909・909・910・911・912・913・914・915・916・917・917・918・918・919・919・920・921・922・923・924・925・926・927・927・928・928・929・929・930・931・932・933・934・935・936・937・937・938・938・939・939・940・941・942・943・944・945・946・947・948・949・949・950・951・952・953・954・955・956・957・958・958・959・959・960・961・962・963・964・965・966・967・968・969・969・970・971・972・973・974・975・976・977・978・978・979・979・980・981・982・983・984・985・986・987・987・988・988・989・989・990・991・992・993・994・995・996・997・997・998・998・999・999・1000

6月22日(木)薄曇り SH128・29・30他掘削  
 6月23日(金)快晴 写真撮影、SH30他掘削  
 6月26日(月)曇り 写真撮影、SH130他掘削  
 6月27日(火)曇り SH28実測、北東部表土掘削  
 6月28日(水)雨後晴れ 北東部表土掘削  
 6月29日(木)曇後晴れ 北東部表土掘削  
 7月3日(月)晴れ 北東部表土掘削段階確認  
 7月4日(火)晴れ後雨 雨天作業なし  
 7月5日(水)雨後晴れ 午後から検出作業  
 7月6日(木)晴れ 段階確認、検出作業  
 7月7日(金)快晴 SH130掘削、検出作業  
 7月10日(月)曇り SH130掘削、検出作業  
 7月11日(火)曇り後晴れ 写真撮影、SH30掘削  
 7月12日(水)曇り SH130掘削  
 7月13日(木)晴れ SH130・SK40・SK38掘削  
 7月14日(金)曇り時々晴れ SH130・SK38写真撮影  
 7月18日(火)快晴 SK27・29・35・SH130取上  
 7月19日(水)快晴 SD12・SH3取上、写真撮影  
 7月20日(木)快晴 道構掘削、SH1・SH3写真撮影  
 7月21日(金)晴れ 作業無し  
 7月25日(火)晴れ 道構清掃、写真撮影  
 7月26日(水)曇後晴れ 排水作業  
 7月27日(木)曇り 排水・清掃作業  
 7月28日(金)曇り 排水作業  
 7月31日(月)曇り 写真撮影  
 8月1日(火)曇り 作業無し

8月2日(木)曇り 現地説明会のための清掃  
 8月3日(木)曇り 排水・清掃作業  
 8月4日(金)曇り 現地説明会準備  
 8月5日(土)晴れ 現地説明会、参加者60名  
 8月7日(月)雨 作業無し  
 8月8日(火)晴れ 段階確認準備、排水作業  
 8月10日(木)晴れ 段階確認 現地作業終了  
 8月31日(木)晴れ 埋め戻し完了

### 3. 文化財保護法等にかかる諸手続き

文化財保護法（以下「法」）等に係る諸手続きは、以下により行っている。

- ・法第 94 条第 1 項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（国土交通省通知、県教育長宛）  
平成 22 年 9 月 29 日付け、社会第 550 号 -2
- ・法第 99 条第 1 項「埋蔵文化財発掘調査の報告について」（市教育長報告、県教育長宛）  
平成 29 年 5 月 22 日付け、社会第 84 号
- ・遺失物法第 1 条第 1 項「埋蔵文化財発見届」（市教育長届出、四日市北警察署長宛）  
平成 29 年 11 月 28 日付け、社会第 84 号 -7
- ・三重県文化財保護条例第 50 条第 3 項「出土品譲与申請」（市教育長申請、県教育長宛）  
平成 31 年 2 月 5 日付け、社会第 91 号



第1図 北勢バイパス建設予定地内（四日市市）遺跡位置図（1:50,000）【国土地理院 桑名・四日市より】

	No.	遺跡名	遺跡番号	調査	所在地	時期	遺物 (発掘調査・分布査定含む)
第1工区	1	四方天(しほうてん)遺跡	496	終了	大矢知町	古墳～鎌倉	灰釉陶器・山茶椀・土師器
	2	四反田(したんだ)遺跡	497	終了	大矢知町	古墳～鎌倉	土師器・須恵器・山茶椀
	3	久留倍(くるべ)遺跡	74	終了	大矢知町	弥生～室町	弥生土器・石斧・須恵器・山茶椀
	4	北之脇(きたのわき)遺跡	405	終了	大矢知町	古墳	土師器・須恵器
	5	羽津広(はづひろ)遺跡	336	終了	大矢知町	弥生	弥生土器
	6	山奥(やまおく)遺跡	84	終了	大字羽津	弥生～古墳	弥生土器・須恵器
第2工区	7	寺坊谷(てらぼうだに)古墳群	82-83	終了	垂坂町	古墳	須恵器
	8	名戸谷口(なとたにぐち)古窯跡	352	終了	山之一色町	古墳	須恵器・灰原
	9	荒井田(あらいだ)遺跡	121	終了	山之一色町	弥生	弥生土器
	10	川原宮(かわらみや)遺跡	498	終了	西坂部町	古墳～	土師器・須恵器・山茶椀
	11	川向山添(かわむかいやまぞえ)遺跡	347	終了	西坂部町	古墳	土師器・須恵器
	12	江田川(えだがわ)遺跡	259	終了	西坂部町	古墳	土師器・須恵器・灰釉陶器
	13	横谷(よこだに)遺跡	120	終了	西坂部町	弥生	石織・土師器・須恵器
	14	東門田(ひがしもんでん)遺跡	499	終了	曾井町	古墳～	須恵器
	15	小生(こも)遺跡	282	未	小生町	古墳～	土師器・須恵器(表採)
	16	生泉(しょうず)遺跡	149	未	小生町	古墳～	土師器・須恵器・山茶椀(表採)
	17	里前(さとまえ)遺跡	421	未	八王子町	弥生～	弥生土器・土師器(表採)
	18	辻の下(つじのした)遺跡	500	未	波木町	古墳～	須恵器(表採)
	19	菖蒲谷(しょうぶだに)遺跡	569	未	北小松町	古墳～	須恵器・土師器(表採)
	20	山添(やまぞえ)遺跡	301	未	北小松町	古墳～	土師器・須恵器・山茶椀(表採)
	21	道堰(どうぜき)遺跡	209	未	北小松町	古墳～	須恵器(表採)
	22	水ノ角(みずのすみ)遺跡	383	未	南小松町	弥生～古墳	弥生土器・須恵器(表採)
	23	大垣外(おおがいとい)遺跡	450	未	南小松町	弥生～室町	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪(表採) (大垣外古墳群を含む)

第1表 北勢バイパス建設予定地内(四日市市)遺跡一覧表

## II 位置と環境

徐々にではあるが様相も明らかになりつつある。

### 弥生時代

弥生時代になると、まず前期には海蔵川と三滝川に挟まれた生桑丘陵上に、いざれも多重環濠をもつ大谷遺跡(12)、水井遺跡(13)など集落が営まれる。中期ないし後期に入ると大谷遺跡、水井遺跡も継続して営まれるが、そのほかの地域でも遺跡数が飛躍的に増加し、海岸部から内部に広く分布が見られるようになる。

久留倍遺跡では中期から後期にかけての堅穴住居のほか、方形周溝墓が確認され、流路からは多くの土器・木製品が出土する。特に後期になると遺構数が飛躍的に増加する。これと時期を同じくして、久留倍遺跡南西の丘陵上に立地する山奥遺跡(14)で県下有数の大規模な集落が営まれる。土製模造鏡や多数の鉄製品などの道具があり、注目される。このほか中野山遺跡でも集落が確認されている。英上遺跡(15)では中期後期に大規模な集落が形成される。後期になると英上遺跡と一つ西側に谷を隔てた西ヶ広遺跡中の集落となる。一方で東側の丘陵頂部に営まれた金塚遺跡(16)では環濠を持つ高地性集落が営まれ、山村遺跡(17)でも環濠が確認されている。低地部では、辻子遺跡(18)で中期後期から後期の集落及び水田が確認されている。墓域としては、久留倍遺跡及びこれに隣接する大矢知山遺跡(19)で方形周溝墓が検出されたほか、山村遺跡でも方形周溝墓が20基検出されている。他に菟上遺跡や広水城跡(20)、間ノ田遺跡(21)でも方形周溝墓が確認されている。この他、金塚遺跡では鍍金文を有する銅鐸破片が、伊坂遺跡では江戸時代に扁平錐式表襪文銅鐸が出土している。

南方の海蔵川北岸の上野遺跡(22)でも中期後葉の集落跡と方形周溝墓が確認されている。

横谷遺跡の近傍では弥生時代の遺跡は見られず、後述するように本遺跡で弥生土器の出土が記録はされているものの、発掘調査では確認されていない。

### 1. 地理的環境

横谷遺跡は、四日市市西部の西坂部町に所在し、江田川右岸の丘陵北端に立地する。

市域を流れる河川は、鈴鹿山脈に源を発し、東流して伊勢湾に注ぐ。

市内では、東部の海岸平野を東海道が南北に通っている。途中の日木追分で參宮道が分岐し、伊勢神宮へ向かう。伊勢湾に面する湊からは、対岸の三河や美濃に通じ、外海へ出て東国とも交易が行われた。鈴鹿山脈の八風越えや千種越えによつて、近江を通る東山道と繋がり、京と東国を結ぶ交通の要衝となっている。

### 2. 歴史的環境

横谷遺跡(1)とその周辺の歴史的な経過を、通観してみたい。なお、文章中の番号は第2図の番号に対応している。

### 旧石器時代

四日市市周辺では、ナイフ型石器の出土する遺跡がいくつか知られている。内部川・鎌谷川流域に属する内戸谷B遺跡や宮藏遺跡などの市域南部のグループと、朝明川流域の久留倍遺跡(2)及び、削器・削片のみの発見であるが当時代に属する可能性がある野呂田遺跡(3)などを含む市域北部のグループである。鶴谷遺跡近傍では旧石器の出土は確認されていない。

### 縄文時代

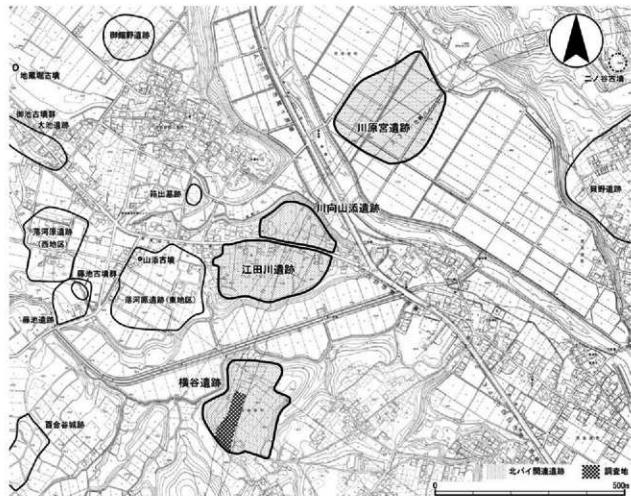
縄文時代草創期に属するものとしては東北山A遺跡(4)など、有舌尖頭器が出土した遺跡が鈴鹿山麓扇状地の台地上で多数確認されている。早期の遺跡は、中野山遺跡(5)で縄文早期の煙道付炉穴が多数検出されたほか、内部川流域の一色山遺跡で押型文土器が出土している。このほかに発掘調査で遺構が確認されている例を挙げると、東日野遺跡(6)や小牧原遺跡(7)で堅穴住居が、西ヶ広遺跡(8)で縄文中期後葉の土坑とその中から深鉢が、志知南浦遺跡(9)や土丹遺跡(10)といった沖積地で縄文晚期の突帯文土器が、伊坂遺跡(11)で狩猟用の陥し穴が検出されており、



第2図 遺跡位置図 (1:50,000) [国土地理院 1:25,000 桑名・菰野・四日市東部・四日市西部 より]

- 6 -

古墳時代に入ると、久留倍遺跡や土上原遺跡でまとまった集落が見られるようになる。また、海岸に近い茂福城跡（24）の下層で確認された里之内遺跡ではS字状口縁台甕が出土しており、この時期に海岸低地への進出が始まったものと見られる。周辺の前期古墳は、內行花文鏡や車輪石・勾玉などが出土した志氏神社古墳（25）があるほか、員弁川水系では三角縁神獸鏡が出土した可能性がある桑名市の高塚山古墳が見られる程度である。しかし、菟上遺跡では滑石製合子型石製品の蓋が出土し、伊坂遺跡では勾玉や管玉が出土していることから、他にも消滅した古墳が存在した可能性もある。中期古墳としては、方墳を主体とする広古墳群（26）や、その東側にあって同じく方墳の可能性が指摘されている淨ヶ坊古墳群（27）がある。後期に入ると、遺跡数が爆発的に増加する。中野山遺跡では前期から続いて集落が営まれる。垂坂丘陵東部地域では、一旦絶断していた山奥遺跡で再び



第3図 横谷遺跡位置図 (1:10,000)

- 7 -

谷古窯跡（40）、名戸谷古窯跡（41）、垂坂古窯跡（42）、鳩浦古窯跡（43）など古墳時代中期から奈良時代にかけて須恵器窯が築かれた。西ヶ谷古窯跡に隣接する西ヶ谷遺跡（44）は、出土遺物からその生産活動に関わっていた集落と考えられる。土師器焼成坑については、山奥遺跡や西ヶ谷遺跡、落河原遺跡（45）、久留宿遺跡で確認されている。

#### 飛鳥～奈良時代

横谷遺跡の所在する坂部町は、『倭名類聚録（和抄）』に見える、古代三重郡の刑部郷に相当すると考えられている。刑部郷内に属すると考えられる当該期の主要遺跡は、貝野遺跡（46）、江田川遺跡、落河原遺跡、上ヶ谷遺跡（47）などがある。特に貝野遺跡では、やや整然さを欠くが、古代の掘立柱建物が多数検出されているほか、畠文土器がまとまって出土しており、遺跡の規模から考えても郷内の中心的な集落であったと考えられる。落河原遺跡では石帶が出土しており、官人の存在をうかがわせる。

また、近隣の朝明川流域を中心とする古代朝明郡に関わると思われる発掘調査成果が近年相次いでおり、今後の研究に大きな期待が持たれる。久留宿遺跡では東向の正殿や八脚門等の施設、大規模な東西棟の掘立柱建物等が検出された。また溝で方形に区画された内側に整然と並ぶ柱建物が確認され、朝明郡の正倉院跡と推測されている。一方、西ヶ谷遺跡で確認された、奈良時代に計画的に配置された大型の掘立柱建物群は、官衙に関連する可能性が高い建物群である。谷を隔てた丘陵上に広がる葛上遺跡では、西ヶ谷遺跡より古い掘立柱建物群が見つかっている。このほか、宮の西遺跡（48）では石帯や木簡が、落河原遺跡や前山遺跡（49）で石帶が出土している。対して、山村遺跡、中村遺跡（50）、貝野遺跡などはこの時期の一般的な集落と思われる遺跡である。久留宿遺跡東方の二之宮遺跡（51）、下之宮南遺跡（52）は、低地部の集落遺跡と考えられる。中野山遺跡や筆ヶ崎古墳群の周辺では、多くの建物跡が見つかり、筆ヶ崎古墳群では铁器加工に関係する遺構や遺物が検出されていることから、当地の古代都城であ

る大鐘群との関係が考えられる。

古代三重郡で確認されている古代の寺院としては、智積町の智積麻寺（53）がある。昭和41年の発掘調査で金堂、講堂、僧坊が確認されている。瓦は、川原寺式のものが含まれ、寺方町の北浦古窯跡群（54）から供給を受けたと考えられている。さらに広域に目を向けると、塔心礎から唐三彩の蓋をもつ含利容器が出土した朝日町の繩生庵寺があり、また桑名市の額田麻寺（55）では飛鳥川原寺と同范の丸瓦が出土している。西ヶ谷遺跡や伊坂遺跡ではまとまった量の瓦が出土し、前者は小規模な堂の存在が、後者は瓦窯の存在が想定される。そのほか、上ヶ谷遺跡では布目瓦が集中して散布する一角があり、その性格が注目される。

#### 平安時代

平安前期には久留宿遺跡で引き続ぎ正倉が建てられている。近接する大矢知山古窯跡は豊富な縄釉陶器などの出土遺物から有力者の居館か寺院関連の遺跡とみられる。当時、当地域に大きな影響を及ぼしたと思われるのは、10世紀前葉に建立され現在も信仰を集め垂坂山観音寺（58）である。大膳寺（56）もその末裔の一つと伝わり、発掘調査で土馬や大量の瓦が出土しているが、遺物の時期は親寺と建立より古い。この近隣にある大谷瓦窯跡（57）は、大膳寺へ瓦を供給した瓦窑である。上野遺跡では人名の墨書き灰陶器が出土し、注目される。

#### 中世

律令的支配体制の崩壊に伴い、北勢地方の員弁郡・三重郡・朝明郡の三郡は相次いで伊勢神宮に寄進されて神都となり、神宮の莊園である御厨・御厨・納所が立てられた。これらの莊園と関わりがあると考えられる遺跡としては、宮ノ西遺跡がある。これは古代から続く遺跡で、出土した木簡から古代柴田郷の一郎であることが知られるが、墨書き土器をはじめとする中世の遺物も豊富に出土しており、近隣の芝田遺跡（59）、小判田遺跡（60）などとともに当地周辺に比定される飯食御厨の一角と考えられる。辻子遺跡は、多数の墨書き土器や灰陶器などの出土遺物から、古代末期に朝明郡

が神宮に寄進された後にこの周辺に所在した弘永御厨の中心城と推定されている。久留宿遺跡では中世の遺構・遺物も多く、掘立柱建物、井戸、溝、区画溝を作った塙墓、火葬墓等が確認した。菟上遺跡では中世前期の集落と中世後期の大火葬墓群が見つかっており、上野遺跡は区画溝と掘立柱建物が確認され、貴重な中世の集落資料となっている。川原宮遺跡（28）では、低地部における小集落とともに地震痕跡も確認されている。

城館について見ると、本遺跡周辺には1204年の三日平氏の乱に間に合すると見られる高角城跡（61）、曾井城跡（62）があるが、いずれも明確な遺構は見られない。ほかに、百合谷城跡（63）、平尾城跡（64）、坂部城跡（65）がある。このうち、平尾城跡は1993年に発掘調査が行われている。さらに平野部に目を向けると茂坂城跡、浜田城跡（66）、赤堀城跡（67）がある。これらは地割や現存遺構から縄張りの復元が試みられており、赤堀城跡は現在まで5回にわたる発掘調査が行われ、土壘などの遺構が検出されている。伊坂城跡（68）は、近年の発掘調査で防御性の高い縄張りや礎石を有する巨大な櫓門が検出され、16世紀代の当地域における城づくりの最高到達点と評価されている。

#### 【参考文献】

##### ●四日市市

『四日市市史 第一巻 史料編 自然』1990

『四日市市史 第二巻 史料編 考古Ⅰ』1988

『四日市市史 第三巻 史料編 考古Ⅱ』1993

『四日市市史 第七巻 史料編 古代・中世』1991

##### ●四日市市教育委員会

『大谷遺跡発掘調査報告書－A地区、B地区－』1966

『大谷遺跡発掘調査報告書II－C地区の遺構－』1976

『大谷遺跡発掘調査報告書III－C地区の遺物－』1977

『北山遺跡試掘調査報告書』1975

『西ヶ谷遺跡発掘調査報告書－D地区－』1972

『大井遺跡発掘調査報告書』1973

『四日市市の後斯古』1973

『大膳寺跡』1978・1979・1980・1981・1982

『西ヶ谷遺跡3』2002、『西ヶ谷遺跡4』2002、『西ヶ谷遺跡5』2005

『大矢知山古窯跡』2002

『山奥遺跡』2003、『山奥遺跡II』2004

『一般国道1号北勢ハイウェイ埋蔵文化財発掘調査概報IX』2006

『久留宿遺跡』5-2013

『久留宿遺跡』6-2013

『川原宮遺跡』2015

##### ●四日市市道路調査会

『上野遺跡』1991、『上野遺跡2』1992

##### 『篠ヶ谷遺跡』1996

##### ●朝日町教育委員会

『眞生庵寺跡発掘調査報告』1988

##### ●朝日町

『みえあさひ文化財マップ』1999

##### ●三重県文化財整理

『東名阪道跡埋蔵文化財調査報告』1970

##### ●三重県埋蔵文化財センター

『中深道跡・金界横穴墓群・山村遺跡発掘調査報告』2002

『研究紀要』第13号 2003

『伊坂城跡発掘調査報告』2003

『伊坂遺跡発掘調査報告』2004

『山村遺跡（第2次）発掘調査報告』2004

『辻子遺跡発掘調査報告』2004

『弓ノ田遺跡・辻子遺跡（第4次）至深調査報告』2005  
『菟上遺跡発掘調査報告』2005

『広水横穴墓群・広水1号墳・広水城跡・広水遺跡発掘調査報告』2006

『西ヶ谷道跡・辻子遺跡（第3・4次）発掘調査報告』2006

『志知南浦遺跡発掘調査報告』2008

『中野山遺跡（第2・3・4・6・7次）発掘調査報告』2016

『篠ヶ崎古墳群・篠ヶ崎西道跡（第4・5・7次）発掘調査報告』2019

『北山C道跡（第2～7次）・西山古墳群 発掘調査報告』2020

『西ヶ谷道跡（第3・4次）発掘調査報告』2006

『志知南浦遺跡発掘調査報告』2008

『中野山遺跡（第2・3・4・6・7次）発掘調査報告』2016

『篠ヶ崎古墳群・篠ヶ崎西道跡（第4・5・7次）発掘調査報告』2019

『北山C道跡（第2～7次）・西山古墳群 発掘調査報告』2020

##### ●その他

鈴木敏雄『三重県三重郡三重村考古学考』1942

### III. 調査の成果

#### 1. 調査の方法

##### (1) 調査区の設定

調査区は、平成 27 年度に実施した一次調査（第 4 図）の結果、要二次調査範囲とされた北勢バイパス用地にかかる遺跡範囲の中央部から南部にかけて設定した（第 5 図）。

##### (2) 小地区の設定

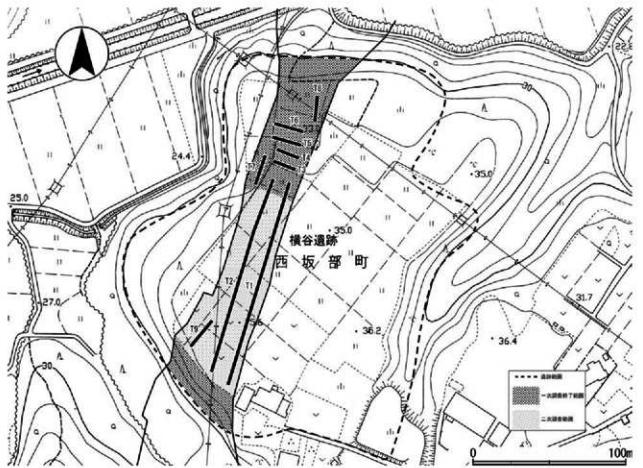
調査区の設定後、調査区全体にわたって国土座標に合わせた 4 m四方の小地区を設定した。各小地区には、東から西へ向かって A から順にアルファベットを、北から南へ向かって 1 から順に数字を付与し、このアルファベットと数字の組み合わせにより各小地区を示した。遺構検出段階における遺物の出土位置の記録は、小地区ごとに行つた。

##### (3) 挖削

現地調査での掘削作業については、まず表土を重機で除去した。その後、人力により包含層掘削と遺構検出作業を行い、検出した各遺構をさらに人力で掘削した。これらの作業は調査区が南北に長いことから土砂搬出の都合上、南部から北部へと段階的に進めた。

##### (4) 遺構番号の付与

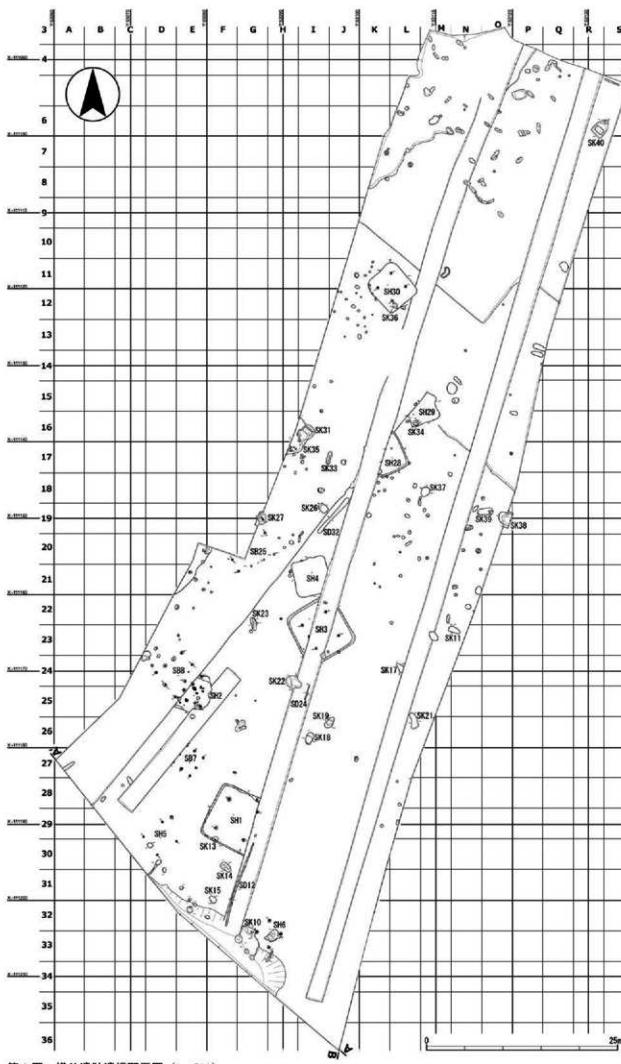
遺構番号は、ピット以外の遺構は全て通し番号とし、表記時に番号の前に S, K, D など遺構の種類ごとの略称を付した。ピットは、小地区ごとに地区名を冠した通し番号を付した。



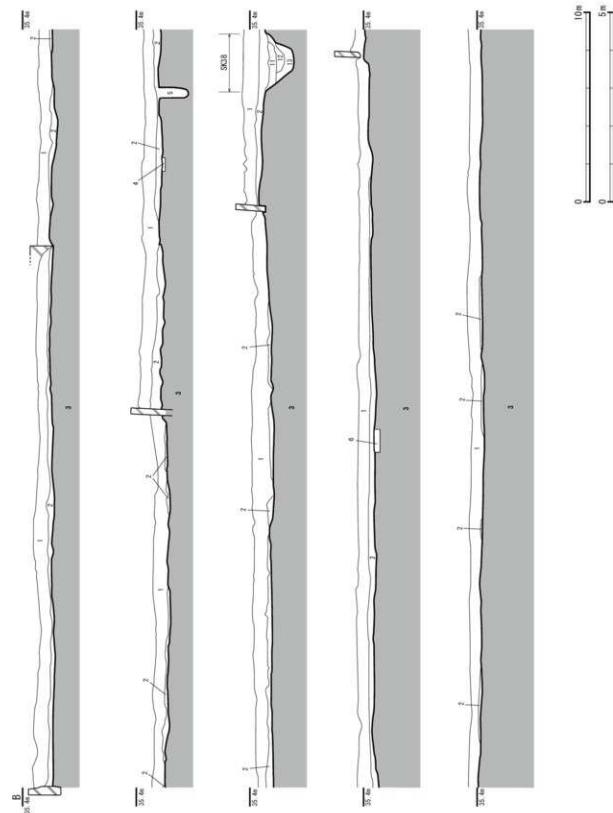
第4図 横谷遺跡一次調査区配置図 (1:2,500)



第5図 横谷遺跡二次調査区配置図 (1:1,000)

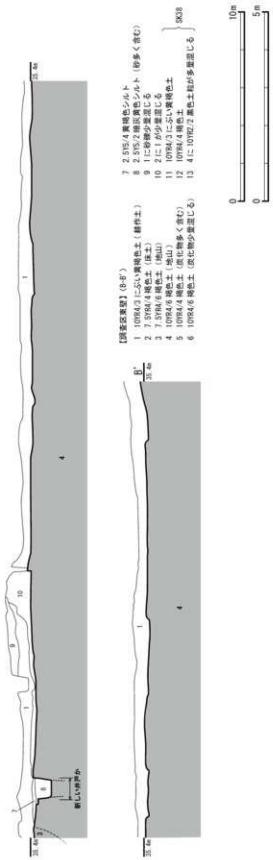


- 12 -



第7図 調査区東壁断面図①(水平1:200 鉛直1:100) 断面位置は第6図参照

- 13 -



第8図 調査区東壁断面図②  
(水平1:200 鉛直1:100)

## 2. 基本層位

調査の結果確認された基本層位は、上から①にぶい黄褐色土（表土・耕作土）、②褐色土（水田底土）、③褐色土（地山）となっており、③層の上面を検出面とした（第7・8図）。さらに③層の下は、褐色砂礫層およびにぶい黄褐色砂礫層となっており、検出面上では部分的にこうした層が露出する箇所も見られた。このほか、調査区南部や北部では②層と③層の間に過去の区画整理時の盛土が厚く入れられている箇所があった（第9図）。調査中に近傍の方から聞き取った話では、戦前に耕地整理を行った際に地盤を削って谷側にトロッコで土を移動したとのことである。そのため、遺構も著しい削平を受けている部分があった。

## 3. 遺構

調査の結果検出された遺構は主に竪穴式住居、掘立柱建物、土坑、溝である。所属時期が明らかなもののはいずれも古墳時代前期であるが、古墳時代後期の遺物も若干出土しているため、調査区外にこの時期の遺構が存在する可能性がある。

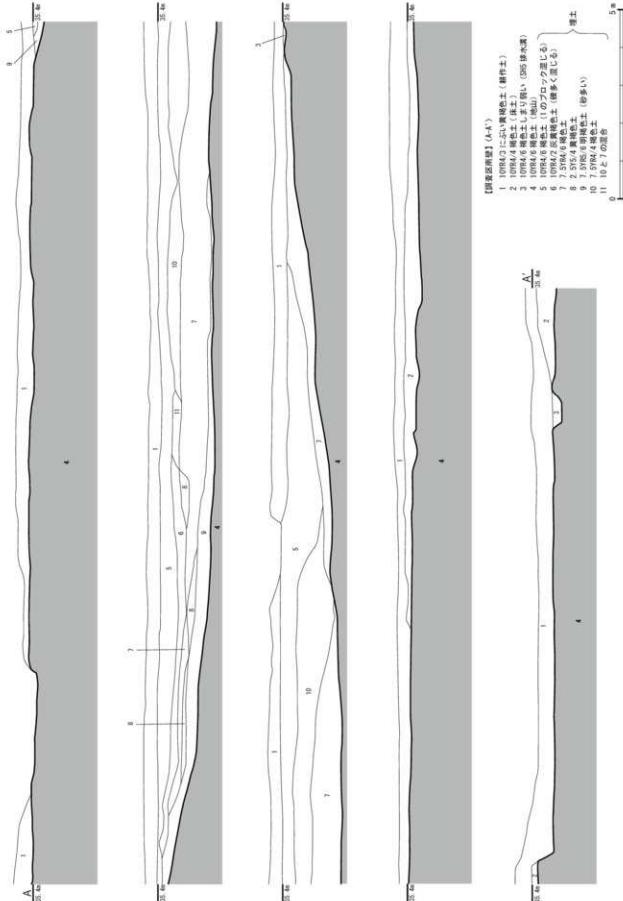
### （1）竪穴住居

**S H 1（第10図）** 調査区南部の丘陵端付近に位置する。東西7.8m、南北8.1mの方形で、東側は一次調査時のトレーニチで大きく削平されている。東辺には排水溝S D12 がつく。この溝は、S H1 から南方へ 9.5m続いて終わっているが、本来は南側の間に排水できるようになっていたと考えられる。主柱穴は直径 0.5～0.4m のものを 4箇所確認した。壁周溝は削平されている東側を除き全周で確認した。

壁際の表面には木炭が散在し、西側の壁面が一部赤化していたので、施朱住居と考えられる。

住居に伴うと考えられる出土遺物は古墳時代前期の土器器蓋・甕・台付甕・高杯があり、埋土上層中から 7世紀代の須恵器杯身が出土した。

**S H 2（第11図）** 調査区南部西側で検出した古墳時代前期の竪穴住居である。重複して建てられている掘立柱建物 S B 8 より古い。耕地整理に伴う削平で残存状況は非常に悪く、平面プランもはつきりしないが、東西 4.5m、南北 5.0m の方形と考えられる。直径 0.4～0.3m の主柱穴 4か所を確認した。



第9図 調査区南壁断面図 (1:100) 断面位置は第6図参照

床面には被痕痕が少なくとも7ヶ所確認できる。壁周溝は確認できない。出土遺物は土師器高杯・台付甕などがある。

**S H 3 (第12図)** 調査区中央部で検出した古墳時代前期の竪穴住居である。中央部分が一次調査に伴うトレチで削平されているが、東西7.0m、南北7.6mの方形である。検出面から床面までの深さは0.25mで、全周する壁周溝を有する。床面の中央やや西よりに炉跡が1か所あるほか、南西隅には貯藏穴と考えられる土坑がある。南西隅から排水溝であるSD24が伸びている。柱穴は直径0.3~0.4m、深さ0.4~0.6mのものを4か所確認した。出土遺物は、土師器台付甕・器皿・高杯、鉄製品の鍬、石製の砥石、焼土塊がある。

**S H 4 (第12図)** S H 3の北側で検出した古墳時代前期の竪穴住居である。南東隅部分が一次調査に伴うトレチで削平されているが、東西4.5m、南北4.7mの方形である。検出面から床面までの深さは0.1mで、壁周溝・主柱穴とともに有しない。出土遺物は少量の土師器台付甕・高杯のほか焼土塊がある。

**S H 5 (第13図)** 調査区南側で検出した竪穴住居である。耕地整理に伴う削平で主柱穴と排水溝が残存する状態である。柱穴は直径0.2~0.3m、検出面からの深さ0.4mのものを4か所確認した。柱間は東西南北共に3.1mである。出土遺物はなく時期は不明であるが、検出状況から古墳時代前期と考えられる。

**S H 6 (第13図)** S H 5と同様、調査区南側で検出した竪穴住居である。耕地整理に伴う削平で主柱穴と排水溝が残存する状態である。柱穴は直径0.4m、検出面からの深さ0.4mのものを4か所確認した。柱間は東西2.3~2.6m南北2.3mである。出土遺物はなく時期は不明であるが、検出状況から古墳時代前期と考えられる。

**S H 28 (第13図)** 調査区中央部で検出した古墳時代前期の竪穴住居である。西側部分が一次調査に伴うトレチで削平されているが、東西4.3m、南北4.9mの方形と考えられる。検出面から床面までの深さは0.25mで、全周する壁周溝を有する。南西隅に貯藏穴と考えられる土坑がある。主柱穴はない。出土遺物は、土師器壺・台付甕・台付甕などがある。

有する。南西隅に貯藏穴と考えられる土坑がある。主柱穴はない。出土遺物は、土師器壺・台付甕・台付甕などがある。

**S H 29 (第14図)** 調査区中央部で検出した古墳時代前期の竪穴住居である。西側部分が耕地整理により削平されているが、東西3.4m、南北3.9mの方形と考えられる。検出面から床面までの深さは0.25mで、全周する壁周溝を有する。床面の中央やや西よりに炉跡が1か所あるほか、南西隅には貯藏穴と考えられる土坑がある。南西隅から排水溝であるSD24が伸びている。柱穴は直径0.3~0.4m、深さ0.4~0.6mのものを4か所確認した。出土遺物は、土師器台付甕・器皿・高杯、鉄製品の鍬、石製の砥石、焼土塊がある。

**S H 30 (第14図)** 調査区北部で検出した古墳時代前期の竪穴住居である。東西4.9m南北5.6mの方形である。検出面から床面までの深さは0.35mで、南西隅に貯藏穴と考えられるSK36がある。柱穴は直径0.3~0.4m、深さ0.3~0.4mのものを4か所確認した。出土遺物は、土師器台付甕・鉢がある。

## (2) 据立柱建物

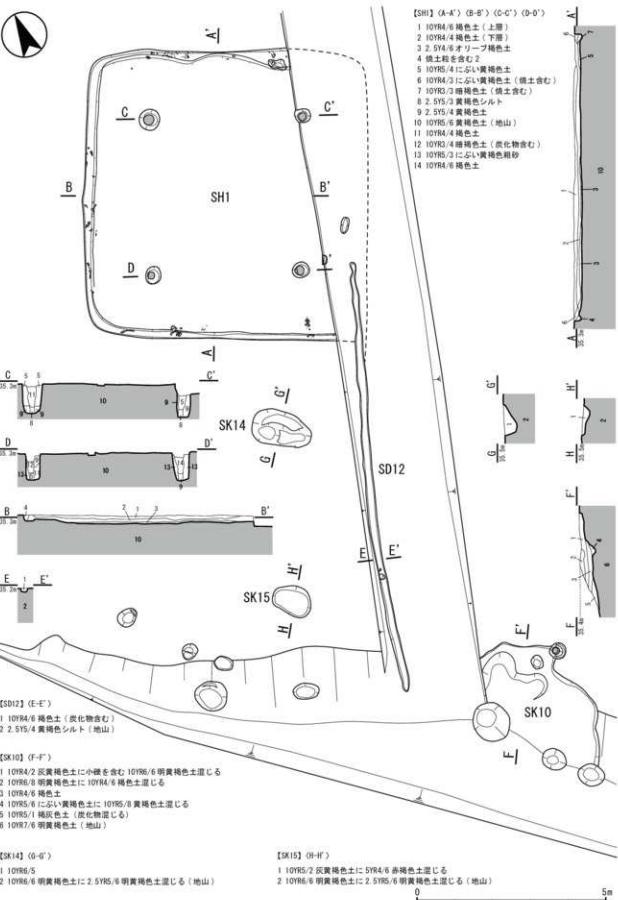
**S B 7 (第11図)** 調査区南西部に位置する南北側柱建物である。桁行2間、梁行2間で、棟方向はN37°E。平面規模は桁行4.4m、梁行4.0mで、柱穴は0.3~0.5mの直径がある。出土遺物はなく時期不明であるが、重複関係から古墳時代前期のSH2よりは新しいものである。

**S B 8 (第11図)** 調査区南西部に位置する東西側柱建物である。桁行3間、梁行2間で、棟方向はN38°W。平面規模は桁行2.9m、梁行2.8mで、柱穴は0.2~0.3mの直径がある。出土遺物はなく時期不明である。

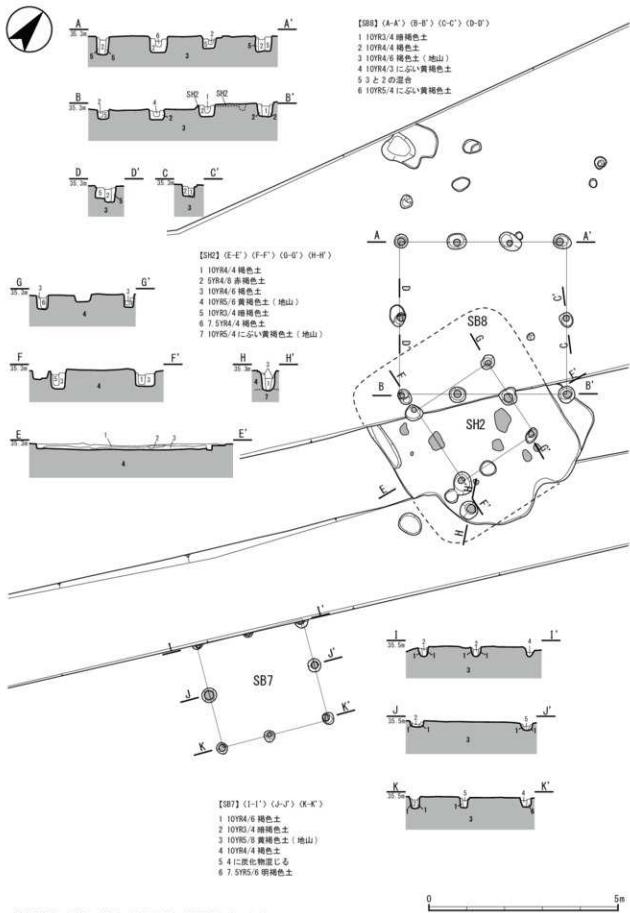
**S B 25 (第12図)** 調査区中央部西寄りに位置する東西側柱建物である。桁行3間、梁行2間で、棟方向はN25°W。平面規模は桁行5.2m、梁行3.2mで、柱穴は0.2~0.3mの直径がある。出土遺物はなく時期不明である。北辺の柱列は第1次調査時には調査区外のため確認できていなかったが、平成31年度に隣接地で実施した第2次調査においてピット2基を検出した。

## (3) 土坑

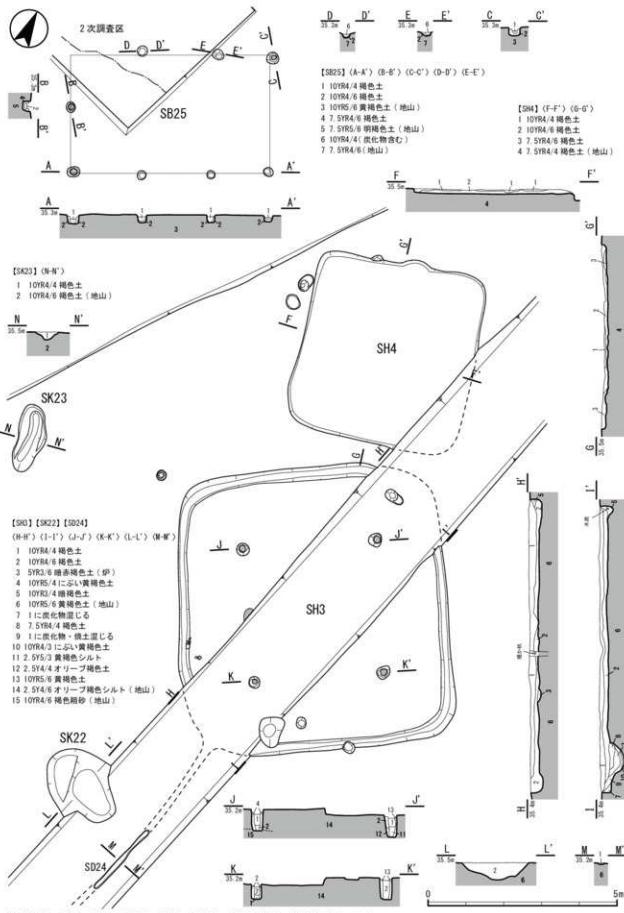
**S K 10 (第10図)** 調査区の南端部で検出した不



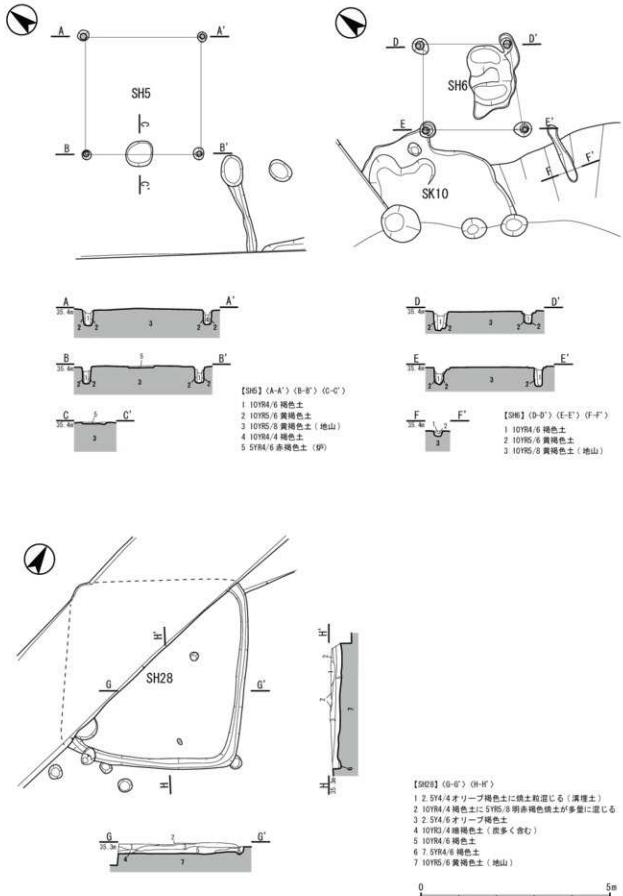
第10図 SH1・SD12・SK10・SK14・SK15 平面・断面図 (1:100)



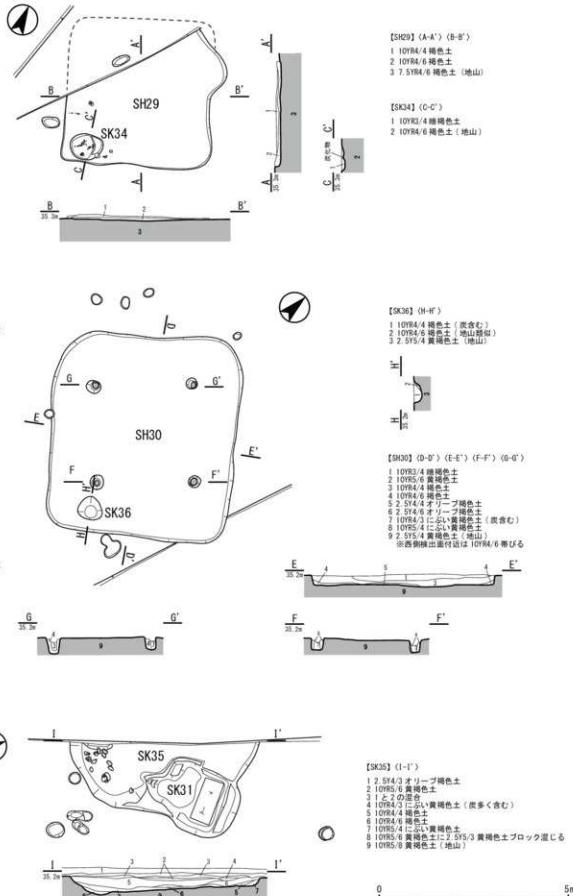
第11図 SH2・SB7・SB8 平面・断面図 (1:100)



第12図 SH3・SH4・SK22・SK23・SD24・SB25 平面・断面図 (1:100)



第13図 SH5・SH6・SK10・SH28平面・断面図(1:100)



第14図 SH29・SK34・SH30・SK36・SK31・SK35 平面・断面図 (1:100)

整形土坑である。東西 2.5m、南北 4.0m で、検出面からの深さは 0.5m である。出土遺物は土師器、須恵器があるが、埋土の状況から比較的新しい時期の落ち込みと考えられる。

**SK11(第 11 図)** 調査区中央部西寄りで検出した不整形土坑である。東西 1.1m、南北 1.0m で、検出面からの深さは 0.2m である。出土遺物は土師器台付甕、焼土塊がある。

**SK13 SH1 の南壁際において確認した土坑で、SH1 より新しい。出土遺物は土師器台付甕、壺がある。**

**SK14(第 10 図)** SH1 の南側で検出した楕円形土坑である。東西 1.5m、南北 0.9m で、検出面からの深さは 0.2m である。

**SK15(第 10 図)** SH1 の南側で検出した楕円形土坑である。東西 1.0m、南北 0.8m で、検出面からの深さは 0.2m である。

**SK17(第 15 図)** 調査区中央部で検出した不整形土坑である。東西 1.6m、南北 0.8m で、検出面からの深さは 0.2m である。出土遺物は、土師器台付甕、高杯がある。

**SK18(第 15 図)** 調査区南部で検出した楕円形土坑である。東西 1.0m、南北 1.6m で、検出面からの深さは 0.2m である。

**SK19(第 15 図)** 調査区南部で検出した不整形土坑である。東西 1.0m、南北 1.7m で、検出面からの深さは 0.3m である。

**SK21(第 15 図)** 調査区中央部東寄りで検出した不整形土坑である。東西 1.0m、南北 2.2m で、検出面からの深さは 0.4m である。

**SK22(第 12 図)** SH3 の南側で検出した土坑である。東西 2.2m、南北 1.8m で、検出面からの深さは 0.4m である。東側を一次調査のトレンチで大きく削られている。

**SK23(第 12 図)** SH3 の西側で検出した土坑である。東西 0.8m、南北 1.8m で、検出面からの深さは 0.1m である。

**SK26(第 15 図)** 調査区中央部で検出した方形土坑である。東西 1.0m、南北 1.3m で、検出面からの深さは 0.2m である。

**SK27(第 15 図)** 調査区中央部西壁際で検出した楕円形土坑である。東西 0.9m、南北 1.5m で、検出面からの深さは 0.2m である。中層の暗褐色土から土師器台付甕などの遺物が集中して出土した。

**SK31(第 14 図)** 調査区中央部西壁際で検出した土坑である。近代の鉄塔基礎坑で、古墳時代前期の大型土坑 SK35 の一部を破壊している。

**SK33** 調査区中央部西寄りで検出した土坑である。近代の鉄塔支柱（ハンド）の埋設坑で、SK31 に対応するものである。出土遺物は土師器がある。

**SK35(第 14 図)** 調査区中央部西壁際で検出した大型土坑である。南北 5.0m、東西 1.8m 以上で、地表面からの深さは 0.6m である。戦前の送電鉄塔の基礎である SK31 により東側の一部が破壊されている。床面南端には泰大の円錐が集中する部分がある。出土遺物は土師器がある。

**SK37(第 15 図)** 調査区中央部で検出した不整形土坑である。東西 1.2m、南北 1.4m で、検出面からの深さは 0.2m である。

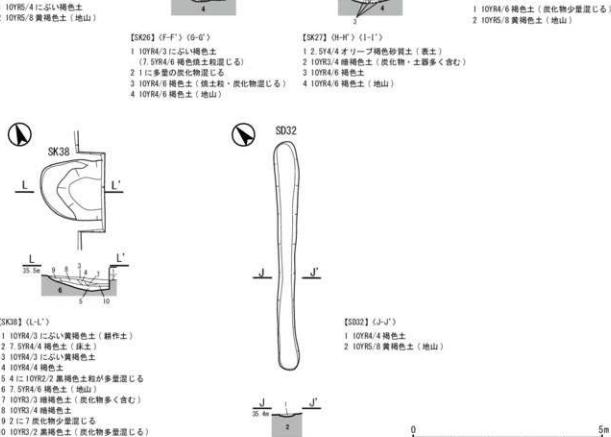
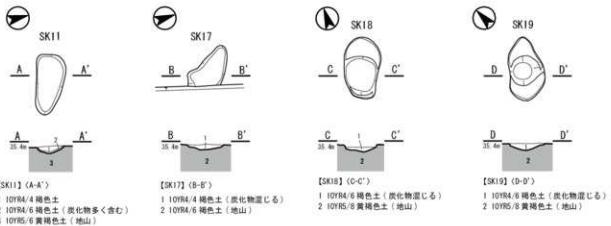
**SK38(第 15 図)** 調査区中央部西壁際で検出した楕円形土坑である。東西 1.7m 以上、南北 1.6m で、検出面からの深さは 0.3m である。中層の暗褐色土から土師器台、台付甕などの遺物が集中して出土した。

**SK39 SK38** の西側で検出した不整形土坑である。東西 1.2m、南北 1.4m で、検出面からの深さは 0.2m である。

**SK40** 調査区北部で検出した方形土坑である。近代の鉄塔基礎坑で、SK31 と一連のものである。

#### (4) 溝

**SD32(第 15 図)** 調査区中央部で検出した南北溝である。全長 6.2m、幅 0.4 ~ 0.6m で、検出面からの深さは 0.1m である。



第 15 図 SK11・SK17・SK18・SK19・SK21・SK26・SK27・SK37・SK38・SD32 平面・断面図 (1:100)

#### 4. 遺物

今回の調査で出土した遺物量は、土器・石製品など、シンテナで26箱分である。本遺跡では從来、弥生土器と石鐵の出土が報告されており、弥生時代の遺跡として認識されていた。しかし、調査では主として古墳時代前期の土師器のほか須恵器も出土したことにより、出土した石鐵は全て縄文時代のものであった。この成果により、縄文時代・古墳時代前・後期の複合遺跡であることが明らかになった。しかし、縄文時代と古墳時代後期の遺構は今回の調査では確認していない。

##### (1) 穴住居出土遺物（第16図）

**SH1 (1~10)** 古墳時代前期前半。1は土師器小形無頸鉢である。2は土師器広口壺で、口縁部内面に刺突により羽状文を施す。外面にも羽状文のあつ形跡がある。3・4は高杯の脚部である。5・6・7は壺の底部である。8は7世紀前半の須恵器杯である。理土上層からの出土で、混入品である。9は砥石で、比較的緻密な軽石である。10は鉄製品の小片で、器種は不明である。このほか、図示していないがS字状口縁台付壺の小片、赤彩された葦網片も出土している。

**SH2 (12)** 古墳時代前期前半。9は土師器台付壺の台部である。このほかに図示していないが、土師器く字状口縁壺、S字状口縁台付壺の小片も出土している。

**SH3 (13~17)** 古墳時代前期前半。13は土師器S字状口縁台付壺B類。14は土師器台。15は土師器楕型高杯。16は土師器高杯脚部。17は鉄製品の錐と考えられる。

**SH28 (18)** 古墳時代前期前半。18は土師器広口壺である。口縁部外面上に羽状文を施す。このほかに図示していないが、土師器S字状口縁台付壺B類の小片も出土している。

**SH29 (19~21)** 古墳時代前期前半。19~21は土師器台付壺の台部である。胎土からみて19はく字状口縁壺、20・21は恐らく同一個体のS字状口縁台付壺と考えられる。

**SH30 (22~24)** 古墳時代前期前半。22は土師器丸底壺、23はく字形口縁鉢でS字状口縁台付壺

と共通する胎土・焼成のものである。24は土師器台付壺の台部である。

##### (2) 土坑出土遺物（第16~17図）

**SK11 (25)** 古墳時代前期前半。25は土師器台付壺の台部である。

**SK13 (26)** 古墳時代前期前半。26は土師器S字状口縁台付壺B類の新段階のものである。

**SK17 (27~28)** 古墳時代前期前半。27は土師器底部、28は土師器高杯又は器台の脚部である。

**SK27 (29~42)** 古墳時代前期前半。29~33は土師器S字状口縁台付壺B類の古段階のものである。34~38は土師器台付壺の台部である。39~42は土師器高杯脚部である。

**SK38 (43~47)** 古墳時代前期前半。43は土師器丸底壺、44は土師器広口壺、45は土師器台付壺の台部。46・47は土師器壺の底部である。

##### (3) 溝出土遺物（第16図）

**SD12 (11)** SD12はSH1の排水溝で、出土した11は土師器高杯脚部である。このほか、溝内からは葦網片も出土している。

##### (4) 包含層出土遺物及び石製品（48~57）（第17図）

48は土師器受口壺である。49~57は縄文時代の石器である。石器は全て堅穴住居内の理土を筋がけて取り上げたものであるが、いずれも縄文時代のもので住居に伴う遺物ではないことからここにまとめた。49は下呂石製、50はチャート製、51~53はサヌカイト製の石鐵である。54はサヌカイト製の石匙であるが、上端が欠けており、石鐵の可能性もある。55と56はサヌカイト、57はチャートの使用痕を有する剥片である。このほか、多数の下呂石・サヌカイト・チャートの剥片が出土しており、縄文時代に属すると考えられる石製品は調査区全体で製品も含めて約60点ある。これの分布状況については、結語で述べる。

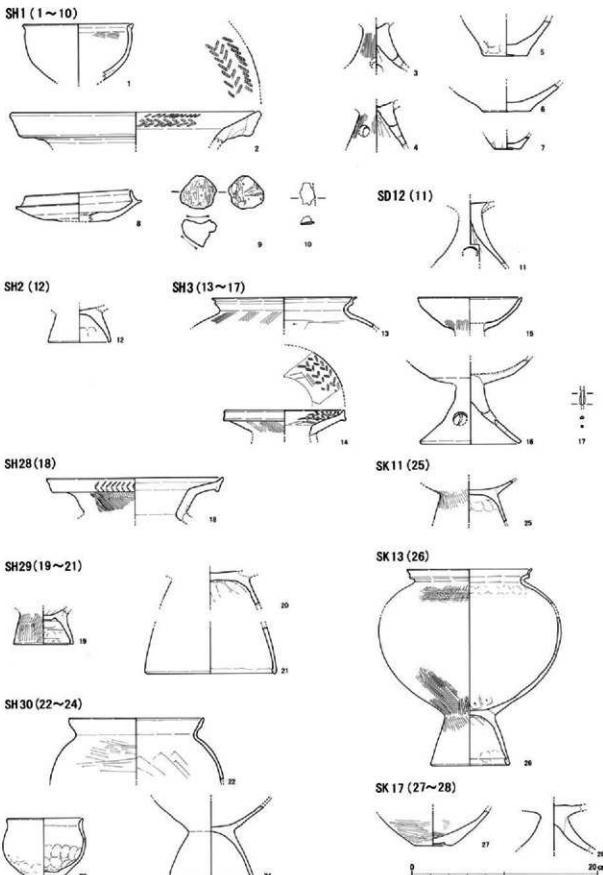
##### 【参考文献】

土器類の分類及び編年は、以下の文献に拠った。

施詠裕昌『第3章 弥生後期～古墳時代土器の型式分類』『六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002

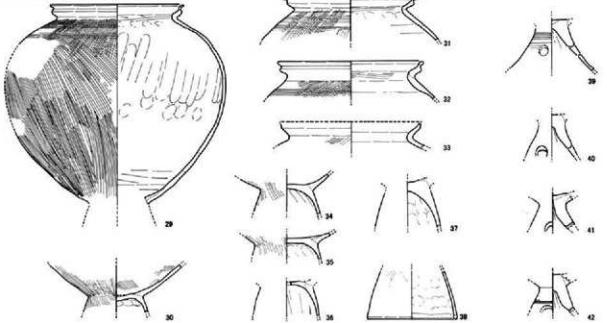
四日市市教育委員会『久留倍遺跡5－遺物編－』2013

四日市市教育委員会『久留倍遺跡6』2013

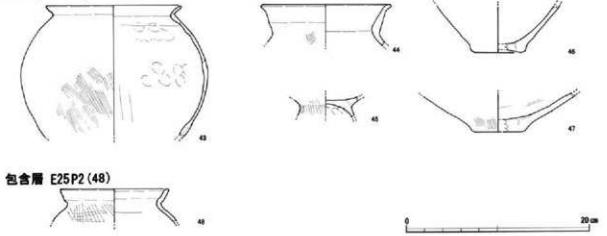


第16図 遺物実測図①(1:4)

SK27 (29~42)



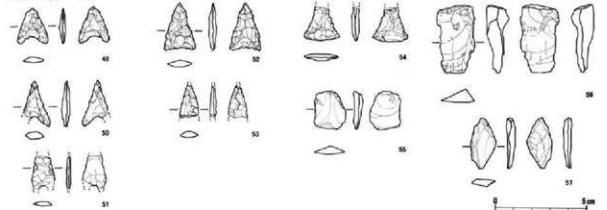
SK3B (43~47)



包含層 E25P2 (48)



石製品 (49~57)



第17図 遺物実測図②(1:4)

番号	出土地点 出土地塊	器種	法量(cm) 口径・底径・高さ	調査法の特徴	出土	構成	色調	存存度 (%)	備考
R1-1	1 F28 SH1 北東上層	土師器 片	11.6 —	外一腹縫 内一ヨコナギ、ナケ、腹縫	灰灰 (10YR8/2)	口10			
R1-2	2 裏土 土師器 片	—	外一ヨコナギ、廢底	中灰 (5-6 cm) の付着物	禮 (5YR7/6)	口10			
R1-3	3 F28 SH1 北東上層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、透孔4方向	中灰 (5-6 cm) の付着物	良 横 (7YR7/6)	細50		
R1-5	4 F28 F29 SH1 北西上層	土師器 片	—	外一タマナギ、透孔3方向、廢底	壁 (1-2 m)の付着物	良 横 (7YR7/6)	台40		
R1-6	5 SH1 北東上層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、透孔3方向、廢底	中灰 (5-6 cm) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台40		
R1-8	6 F28 F29 SH1 北東上層	土師器 片	—	外一ヨコナギ、ナケ、腹縫	中灰 (5-6 cm) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台40		
R1-9	7 G28 G29 SH1 北東上層	土師器 片	—	外一板ナギ、ナデ 内一ナデ	中灰 (5-6 cm) の付着物	良 横 (7YR7/6)	底100		
R1-10	8 G28 G29 SH1 北東上層	陶製品 片	11.3 3.5 2.5	腹縫 最大幅 最小幅 厚さ	外一ロクナギ、廢底 内一ロクナギ	灰灰 (2.5YR7/2) 灰灰 (10YR8/2)	底100		
R1-11	9 G28 G29 SH1 北東上層	石製品 片	—	—	灰灰 (2.5YR7/2) 灰灰 (10YR8/2)	底100			
R1-12	10 SH1 西南	陶製品 片	—	—	—	—	—	—	底100 程好
R1-13	11 トレンチ2 SD12	土師器 片	—	外一ヨコナギ、廢底 内一ナデ、シリヤリ	壁 (3-4 m) の付着物	良 横 (5YR7/6)	細50		
R1-14	12 SH1 西半	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナデ、廢底	中灰 (5-6 cm) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台100		
R1-15	13 SH1 東部上層	土師器 片	15.4 —	外一ヨコナギ、タマハケ、廢底 内一ヨコナギ、ナデ、腹縫	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (10YR8/2)	口35		
R1-16	14 SH1 東	土師器 片	12.7 —	内一羽ナギ2段、ナデ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台40		
R1-17	15 SH1 西周溝	土師器 片	11.2 —	外一タマナギ、廢底	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (5YR7/6)	台40		
R1-18	16 123 SH2	土師器 片	—	内一透孔3方向、削痕、廢底	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (5YR7/6)	台40		
R1-19	17 SH1 東半周溝	陶製品 片	10.4 —	内一透孔3方向、削痕、廢底	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (5YR7/6)	台40		
R1-20	18 SH1 西	土師器 片	18.9 —	外一羽ナギ、ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (10YR8/4)	口10		
R1-21	19 SH1 西アゼ 合付縫	土師器 片	—	内一板ナギ、ナデ、指サエ後板ナ・ナデ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台90		
R1-22	20 SH19 合付縫	土師器 片	—	外一縫底、粘土接合面に指サエ工痕 内一ナデ、指サエ、指サエ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-23	21 SH19 合付縫	土師器 片	—	内一ナデ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-24	22 SH19 合付縫	土師器 片	—	内一透孔	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-25	23 SH19 合付縫	土師器 片	—	内一ヨコナギ、廢底	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-26	24 SH19 合付縫	土師器 片	—	内一ヨコナギ、廢底	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-27	25 SK11 アゼ S半層	土師器 片	6.2 —	内一ナガナハゲ 内一指サエ、ナデ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-28	26 F28 SH1 東半層	土師器 片	13.4 8.0 21.3	内一ヨコナギ、ナメハケ、ナメハケ、廢底 内一ナガナハゲ、ナメハケ、ケヌリ、廢底	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (10YR8/4)	口20		
R1-29	27 M24 SH1 東半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナデ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (4/5YR7/6)	底90		
R1-30	28 SK17 S半層	土師器 片	—	内一ナガナハゲ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-31	29 G19 SK27 S半層	土師器 片	13.8 —	内一ヨコナギ、ナメハケヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-32	30 G19 SK27 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-33	31 G19 SK27 S半層	土師器 片	14.3 —	内一ヨコナギ、ナメハケヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-34	32 SK27 No.3 S半層	土師器 片	15.2 —	内一ヨコナギ、ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-35	33 G19 SK27	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-36	34 SK27 No.2 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-37	35 SK27 No.3 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-38	36 G19 SK27 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-39	37 SK27 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-40	38 SK27 No.3 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-41	39 SK27 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-42	40 SK27 No.3 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-43	41 SK27 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-44	42 SK27 No.3 S半層	土師器 片	—	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	台20		
R1-45	43 SK28 S半層	土師器 片	14.6 —	内一ヨコナギ、ナメハケ	中灰 (3-4 m) の付着物	良 横 (7YR7/6)	口5		

第2表 遺物朝覧表①

## IV 結語

E0-2	4019 SK08	土師器 内・外一層付	14.0	-	外一ヨコナギ、タテハケ、蘆葦 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (10YR 4/4)	口 15	出土表面に内れ付
E0-3	4019 SK08	土師器 台付型	-	-	内一ヨコナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (10YR 3/3)	台 20	
E0-4	4019 SK08	土師器 内・外一層付	5.0	-	内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (10YR 3/3)	底 30	
E0-5	41 SK08	土師器 茎	-	5.0	内一タテハケ、板ナギ、蘆葦 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (10YR 4/4) 良 (2.5H/1)	底 45	出土表面に内れ付
E0-11	40 SK07	土師器 石縁付	11.6	-	内一ヨコナギ、ヨコハケ兼タテハケ 内・外一ヨコナギ、蘆葦	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	口 20	出土表面に内れ付
E0-13	45 SH1 南東上	石製品 石鏡	2.5	-	内一ヨコナギ、ヨコハケ兼タテハケ 内・外一ヨコナギ、蘆葦	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 7/7)	-	
E0-2	50 SH1 南東下	石製品 石鏡	2.0	1.2	内一ヨコナギ、板ナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 5/5)	-	
E0-5	51 SH2 南東	石製品 石鏡	2.5	1.0	内一ヨコナギ、板ナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	-	
E0-6	52 SH2 北東周遭	石製品 石鏡	2.5	1.4	内一ヨコナギ、板ナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	-	
E0-7	52 SH20 東	石製品 石鏡	2.5	1.4	内一ヨコナギ、板ナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	-	
E0-4	54 SH2 東	石製品 石鏡	2.5	1.4	内一ヨコナギ、板ナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	-	
E0-9	55 SH20 東	石製品 剥片	3.0	1.7	内一ヨコナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	-	
E0-10	56 SH20 東	石製品 剥片	3.0	1.5	内一ヨコナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6)	-	
E0-14	51 SH20 東 南東アガ	石製品 剥片	2.5	1.4	内一ヨコナギ 内・外一層付	土師器 内・外一層付	良	支那繩 (SYT 6/6) 良 (SYT 6/6) 良 (SYT 6/6)	-	

遺構 番号	時期	規模 (m)		開敷	出土遺物	備考	小地区
		東西	南北				
SH1	古墳前期	7.8	8.1	北・西・南	-	石器・土師器・漆器部	東山手平・排水溝有
SH2	古墳前期	4.0	5.0	北	土器	土器	東山手平
SH3	古墳前期	7.7	7.6	全周	土器	土器	東山手平
SH4	古墳前期	4.4	4.1	中央に1	石器・土器部・石製品・鉄製品	鉄穴・排水溝有	H22・23
SH5	古墳前期?	-	-	-	土師器	土器	H21・122
SH6	古墳前期?	-	-	-	漆器に1	漆器	C29・330
SH7	古墳前期?	4.3	4.9	全周	土器	土器と排水溝のみ	H21・133
SH9	古墳前期	3.4	3.9	-	土師器	土器	K17・L17
SH10	古墳前期	4.9	5.5	-	土師器	野藏式SK34有	L15・W16
SH11	古墳前期	-	-	-	石器・土師器	野藏穴SK38有	K11・L12
<hr/>							
遺構 番号	時期	規模 (m)		開敷	出土遺物	備考	小地区
		東西	南北				
SH7	SHより新	N-37°-E	4.4	4.0	2×2	銅鏡	E28・27
SH8	SH-28°-W	2.9	2.8	3×2	銅鏡	E24・25	
SH25	N-25°-W	5.2	3.2	3×2	銅鏡	F20・F21	
<hr/>							
遺構 番号	時期	規模 (m)		開敷	出土遺物	備考	小地区
		東西	南北				
SK10	不整期	4.0	2.5	0.5	土師器・漆器部	031・33	
SK11	不整期	2.0	2.0	0.2	土師器・漆器部	032	
SK12	古墳前期	0.8	0.8	0.1	土師器	SH1より新	
SK14	古墳前期	1.5	0.9	0.3	土師器	F30・31	
SK15	楠円形	1.0	0.8	0.2	土師器	F31	
SK17	古墳前期	1.6	0.8	0.2	土師器	L24	
SK18	楠円形	1.0	1.6	0.2	土師器	L26	
SK21	古墳前期	1.0	1.0	0.2	土師器	L28・29	
SK22	古墳前期	1.0	2.2	0.4	土師器	L28	
SK23	古墳前期	2.2	1.8	0.4	土師器	054	
SK24	古墳前期	0.8	1.8	0.1	土師器	022	
SK25	方形	0.8	1.8	0.1	土師器	119	
SK27	古墳前期	0.9	1.5	0.2	土師器	019	
SK31	近代	1.0	2.4	0.9	鐵塔基礎坑	I16・17	
SK32	近代	0.6	1.0	0.3	鐵塔基礎坑	I17	
SK35	古墳前期	1.8以上	5.0	0.6	土師器	H16～I17	
SK37	古墳前期	1.2	1.4	0.2	土師器	019	
SK38	古墳前期	1.7以上	1.6	0.3	土師器	019	
SK39	古墳前期	1.2	1.4	0.2	土師器	019	
SK40	近代	1.7	2.5	1.0	鐵塔基礎坑	R6・S6	
<hr/>							
遺構 番号	時期	規模 (m)		開敷	出土遺物	備考	小地区
		南北	南北				
SH11	古墳前期	11.7	0.2～0.3	0.1	土師器	SH20排水溝	
SH24	古墳前期	2.1	0.1～0.2	0.1	土師器	SH3排水溝	
SH25	N-32°-E	6.2	0.4～0.6	0.1	土師器	J18～J19	

横谷遺跡の調査で検出された様々な遺構から、遺跡内における集落の動向と、周辺の他の遺跡との関係について考えてみたい。

### (1) 繩文時代の動向について

本遺跡では、調査前より既に石器の出土は知られていたが、具体的な所属時期が不明であった。今回の調査で出土した石器はチャート・下呂石・サスカイト製のもので、いずれも繩文時代に属するものである。合わせて、多数の剥片も出土したことから、当地において一定期間居住し、石器製作も行っていたことが考えられる。ただし、調査では明確に出土遺物か繩文時代のものであると考えられる遺構は確認されていない。繩文時代の遺物の大部分は、古墳時代前期の堅穴住居から出土したものであり、石質別の数量分布は下記の通りである。

遺構	グリッド	サスカイト	チャート	下呂石
SH1	F28～30 G28～30	8	4	1
SH3	H23・23 I22・23 J22・23	1	3	0
SH28	K17・18 L16・17	2	0	0
SH30	K11・12 L11・12	1	35	0

第7表 各遺構別石器石材数量表

このように、調査区北部のSH30において突出した量のチャート剥片が出土していることが注目される。北方及び西方谷地への眺望がきくこの周辺に住居などが存在した可能性がある。

本遺跡の近隣地域では、当該期の明確な遺跡が現段階で確認されておらず、川向山遺跡の発掘調査でチャート剥片が出土している程度である。今回の調査では住居内の埋土を築がけすることによりこれらの遺物を確認できたものであり、周辺

の遺跡でも調査手法次第で今後確認できる可能性があるろう。

### (2) 古墳時代前期の動向について

横谷遺跡は、四日市市遺跡地図(II)によれば、弥生時代の遺物包含地で、出土遺物として石器が挙げられている。今回の発掘調査により、古墳時代前期前半を主体とする集落遺跡であることが明らかとなった。多くの遺構から出土しているS字状口縁台付窓を指標とすると、所属時期が明確な遺構は、S字状口縁台付窓B類及びC類(II)の段階のものである。従って、集落の存続期間は古墳時代前期の間で、中期には廃絶していたようである。後期以降は、若干の遺物が確認できるものの、明確な定住の痕跡は見いだせない。

周辺地域の動向に向けてと、直近では江田川をはさんだ北側丘陵上にある川向山遺跡の平成28年度に行なった発掘調査で、受口窓の口縁部が出土している。さらに視野を広げると、本遺跡の東方1kmの海蔵川左岸には弥生時代とされる四ツ谷遺跡がある。しかし、出土遺物の存在は明らかではなく、実態も不明であるとされている(II.3)。



第18図 横谷遺跡周辺遺跡位置図 (1:50,000)

四ツ谷遺跡の南側 500m の海蔵川右岸台地上には、弥生時代前期～後期及び古墳時代後期を中心とする大谷遺跡<sup>(注4)</sup>があり、こちらと同時期に存在した集落の可能性がある。さらに海蔵川を2kmほど下った左岸には、弥生時代から室町時代にかけての複合遺跡である上野遺跡<sup>(注5)</sup>がある。

横谷遺跡とこれらの遺跡が、弥生～古墳前期にかけての海蔵川中下流域における集落群としてみることができるだろう。横谷遺跡は、その中でも海蔵川から外れた奥まった位置にあり、眺望や水利を考えても良好な立地とはいい難い。集落としての存続期間が、他の周辺遺跡と比較すると短期間であったのもそうした理由によるものではないかと考えられる。

今後、川向山添遺跡・江田川遺跡をはじめとする周辺遺跡から当該期の遺構・遺物が出土する可能性は十分あるので、今後の調査に期待したい。

#### 【注】

① 四日市市教育委員会『四日市市遺跡地図 改訂版』

1994

② 他積裕昌「第3節 弥生後期～古墳時代土器の型式分類」『六大大遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002

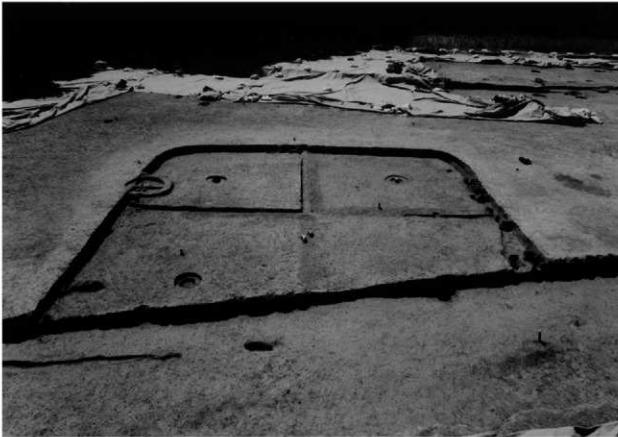
③ 四日市市『四日市市史 第二巻 史料編考古Ⅰ』  
1988

④ 四日市市教育委員会『大谷遺跡発掘調査報告－A 地区、B 地区－』1966

四日市市教育委員会『大谷遺跡発掘調査報告Ⅱ－C 地区の遺構－』1976

四日市市教育委員会『大谷遺跡発掘調査報告Ⅲ－C 地区の遺物－』1977

⑤ 四日市市遺跡調査会『上野遺跡』1991  
四日市市遺跡調査会『上野遺跡2』1992



S H 1 全景（東から）



S H 1 全景（北から）

図版 2



S H 2 全景（北から）

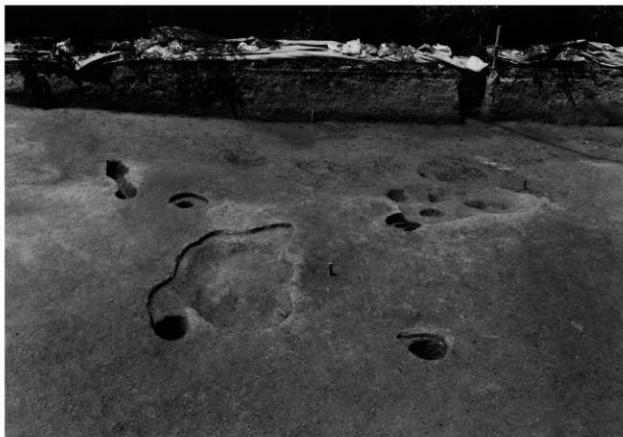


S H 3 全景（東から）

図版 3



S H 5 全景（北から）



S H 6 全景（北から）

図版 4



S H 2 8 全景（北東から）



S H 2 8 全景（北から）

図版 5



S H 3 0 全景（東から）



S H 3 0 全景（北から）

図版 6



SB 7 全景（北西から）

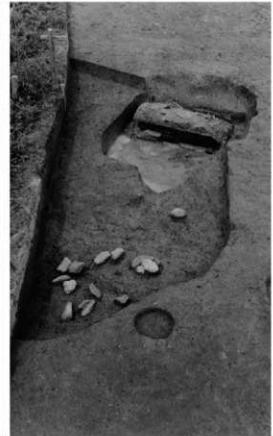


SB 8 全景（北東から）

図版 7



SB 25 全景（北東から）



SK 35・SK 31 全景（南から）



SK 35・SK 31 全景（東から）

図版 8



SK 27 遺物出土状況（南西から）



SK 38 全景（西から）

図版 9

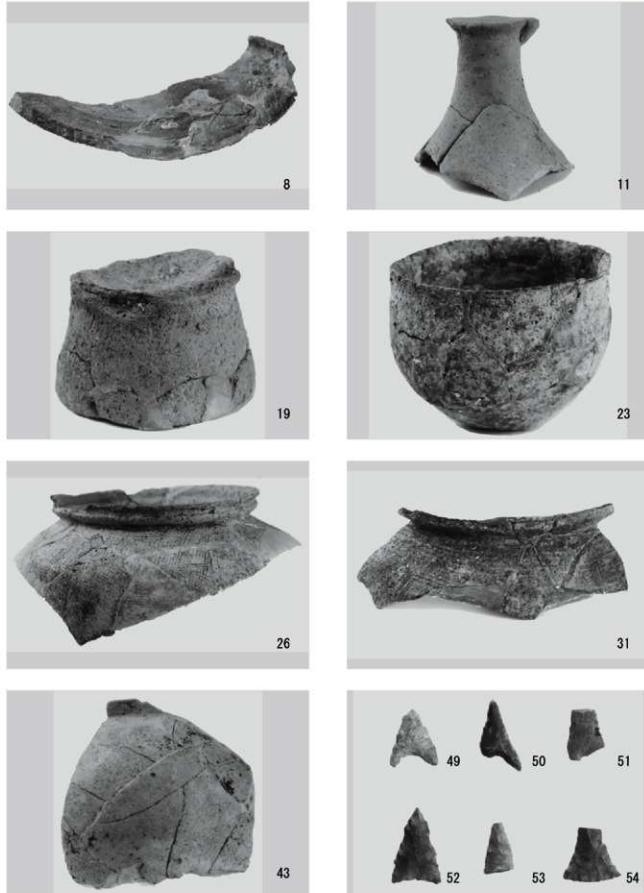


調査区南部全景（北から）



調査区中央部遺構群（南から）

図版 10



## 報告書抄録

ふりがな	いっぽんこくどういちごうはくせいばいほんけんせつじぎょうよとものなうまいぞうぶんかざいははつちゅうさほうこくV よこだにいせき							
書名	一般国道1号北勢バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 V							
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	56							
編著者名	山本達也							
編集機関	四日市市教育委員会							
所在地	〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号 Tel059-354-8240							
発行年月日	2021(令和3)年3月31日							
所取遺物名	所取遺物名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
横谷遺跡	横谷遺跡	市町村 四日市市 西坂部町	遺跡番号 24202	120 34° 59' 47"	136° 34' 45"	20170516 ~ 20170831	4,092	一般国道1号北勢バイパス建設に伴う事前調査
所取遺物名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
横谷遺跡	集落跡	古墳	堅穴住居・ 掘立柱建物 ・土坑・溝 ・ビット	土師器・須恵器 ・石器	古墳時代前期の堅穴住居を9棟発見した。			
要約	横谷遺跡は、江田川右岸の丘陵北端に立地する弥生時代の遺跡として把握されている。調査の結果、古墳時代前期の堅穴住居と掘立柱建物及び土坑を検出した。主な遺物としては、S字形状口縁付甕をはじめとする多数の土師器がある。このほか、少量の古墳時代後期の須恵器や、縄文時代の石器・剥片も出土した。							

四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書56

**横谷遺跡**

2021年（令和3年）3月  
編集・発行 四日市市教育委員会  
印刷 崑山印刷